

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010210

政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12	学校教育の充実	事業優先度	A		
単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	政策事務分類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	12	教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	資格取得者数		関係課	#N/A		
事業目標	小学校120人 中学校100人		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加	無		関係例規・法令名	有	雄武町立小中学校児童生徒検定チャレンジ促進助成金交付要綱	
住民協働			関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	漢字検定・英語検定等受験料の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成	検定受験費用の助成
	事業費(千円)	1,625	325	325	325	325
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	1,625	325	325	325	325	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	103	103	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	103	103				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	検定受験費用の助成 児童67人・生徒99人				
		※前年度評価結果 B-継続/拡充	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	120人・100人	120人・100人	120人・100人	120人・100人
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	32%	0%	0%	0%
	全体達成率	6%	6%	6%	6%	
	事業進捗状況	☆☆☆				

事業名	小中学校児童生徒検定チャレンジ促進事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課	課長 石井弘道
		評価者 作成者 職氏名	教育振興課教育総務係	係長 武藤知憲

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童、生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	チャレンジ児童、生徒数
【抱える課題やニーズは】	児童の漢字検定並びに生徒の漢字検定及び英語検定における受験費用の保護者の経済負担	指標(指標計算式/解説)	目標年度及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	漢字検定及び英語検定受験費用を一部助成することにより保護者負担の軽減を図る。	① チャレンジ児童、生徒数	目標年度 平成25年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	受験費用の一部助成により、受験者が増加し、児童生徒の漢字力及び英語力の向上が図られる。		目標値 220人
			実績値 166人
		②	達成度 75.5%
			目標年度 平成25年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成金の支給	受験者の取りまとめは、町内各小中学校が窓口となり、教育委員会に報告。教育委員会は各学校からの申請に基づき助成金を交付しています。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	児童、生徒の学習意欲、チャレンジ精神の向上、保護者への経済支援として、受験費用の一部助成は、学力向上のためにも必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	目標として設定しました受験者数は下回りましたが、事業開始年度でもあり、今後の周知方法及び事業の制度設計について、検討を進める必要があると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	学習意欲、チャレンジ精神の向上を推進するために行っている事業であり、現時点においては、コストに見合った効果が得られていると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	児童、生徒の誰もが、チャレンジする場合に助成が受けられるものであり、公平性が保たれていると判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
目標として設定しました受験者数は下回りましたが、事業開始年度から2年目を迎え、制度設計の拡充を進めた実績が表れています。ほぼ計画どおり事業が進んでいるが目標を達成できていない状況にあります。		



継続/現状維持		
平成25年度において、受験回数の制限撤廃及び小学生に対する英語検定の受験費用の一部助成等、事業の制度設計の拡充を進めており、今後も計画通り事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止